

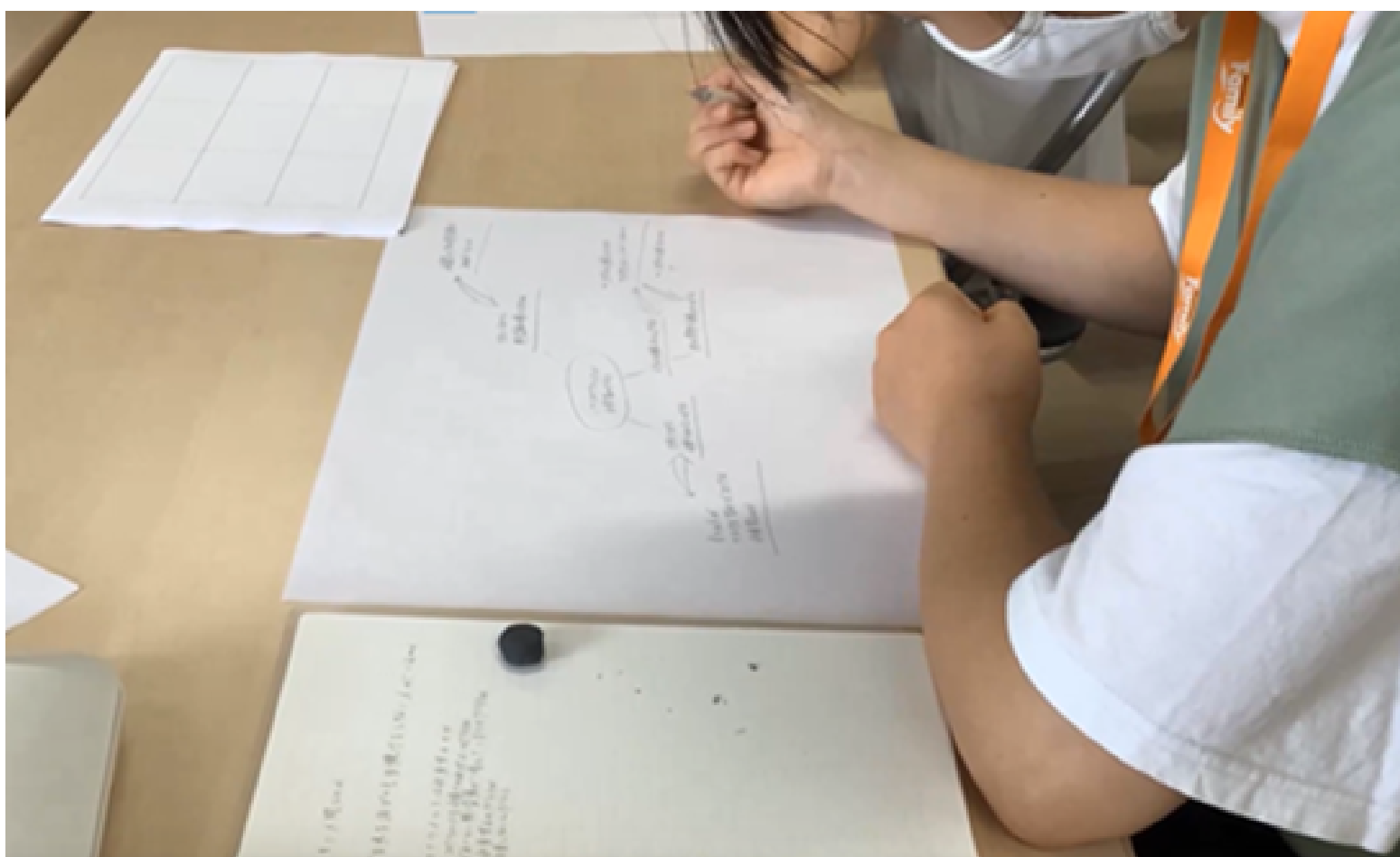
# Family SDGs Global Campus (August 16-18)

可児市にある未使用車販売店「ファミリー」で、8月16日～18日の3日間、「グローバル・キャンパス」が催されました。このイベントは、「ファミリー」社員の村瀬さんと東南アジアでの人材育成に尽力されている講師の中村健司さん、金城学院大学の学生のみなさん、そして本校とのご縁によって実現したものです。身近な興味から疑問を掘り起こし、それを解決するという「課題解決能力」を身に付けるワークショップと、カンボジアとのオンライン交流を通じて、グローバルな探究学習を体験することができた3日間でした。



探究学習に大事なことは、その場にいるみんなが恐れずに自由に発言できる心理的安全性です。そのため、イントロダクションでは、①価値判断しない、②ためらわない、③助け合う、④楽しむ、の4つの原則を守ろうというお話がありました。

みんなで輪になってアイスブレイク：自己紹介や早口言葉ゲームで緊張をほぐします。その後、一人一人が小さな疑問を挙げて次々につないでいくリレーに挑戦。最初はなかなか思いつかない人も、「とりあえず目に入ったものについて疑問を作る」「前の人の疑問から派生する」等のコツをつかんでいきます。

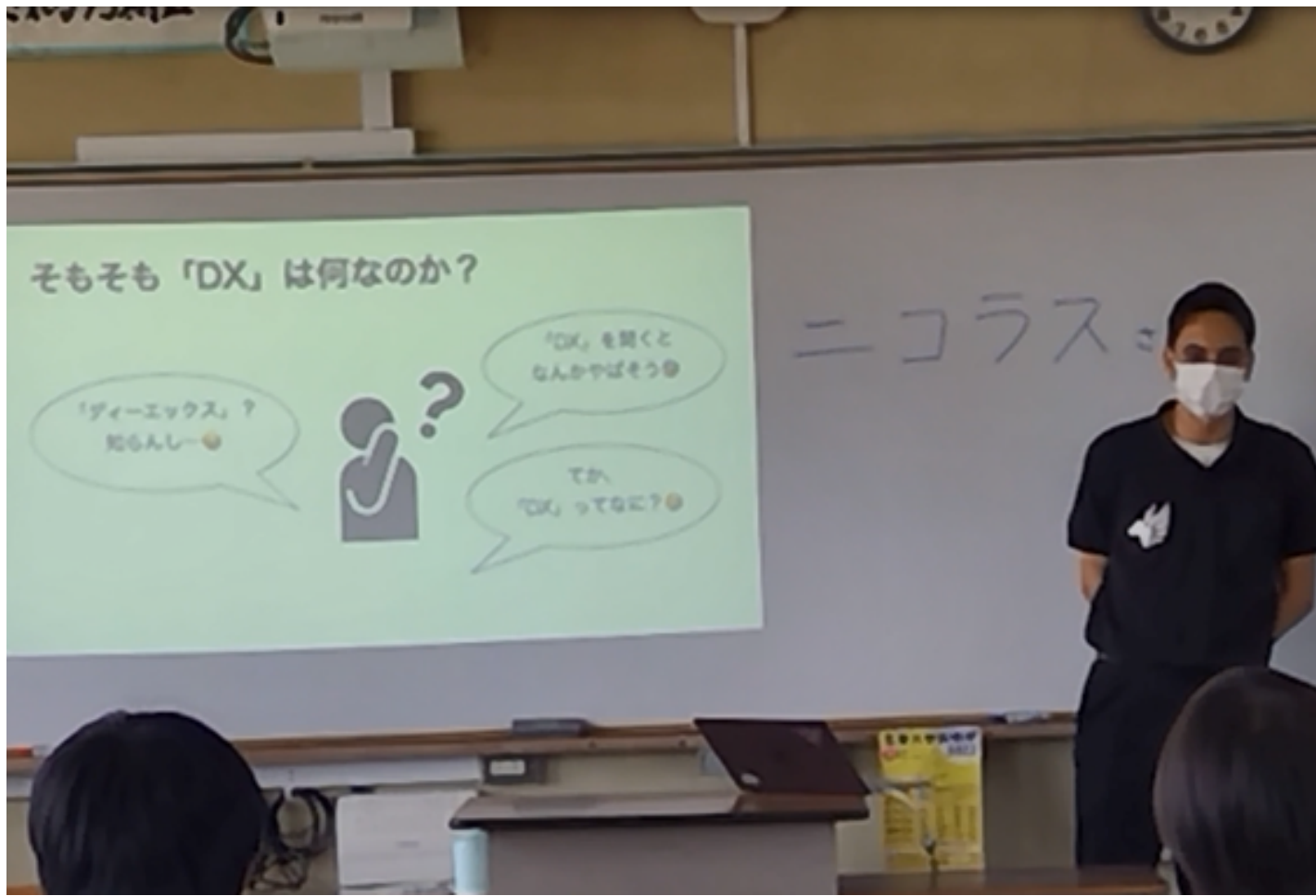


「疑問リレー」を終えて、次は探究課題探しへ。クローズドクエスチョンをオープンクエスチョンに書き換えることで、自分なりの仮説を立てていきます。中にはノートいっぱい疑問を書き出せる生徒も！

カンボジアの現地の方とオンラインで交流することもできました。見知らぬ国の独自の文化に驚きもたくさん。世界を身近に感じながら、自分のことも深く掘り下げることができた3日間でした。

# 夏のオープン・エンリッチ2022

8月19日（金）、1年生対象のキャリア教育事業である「夏のオープン・エンリッチ」が催されました。毎年開催の行事ですが、今年度から「総合的な探究の時間」が実施されている1年生にとって、後期のグループ探究学習への大事な足がかりとなるように、今回は特に「地域の課題」を発見し、その解決のために精力的に取り組んでいる社会人や先輩をお招きし、お話をうかがいました。生徒たちは全10講座のうち2講座を聴講し、その後のグループ交流の時間に、班員同士でジグソー形式での情報共有を行いました。午後からは「振り返り講座」として、本校卒業生である角野仁美さん（NPO法人「みらいずworks」理事）にご講演をいただきました。



「レクセント」社のニコラスさんは「DX（デジタル・トランスフォーメーション）」についてお話してくださいました。



倉知弁護士は元ひきこもりという異例の経歴と、地域で働く弁護士の役割について興味深いお話をしてくださいました。



加茂IT塾主宰、本校OBでもある大島好晶さんは、ご自身が開発されたアプリケーションをご紹介くださいました。



中古車販売店「ファミリー」の吉田社長は「思考は現実化する」という信念に基づいた経験談を語ってくださいました。

## 【開講された講座】

- ・ 可児市役所（2講座展開）
- ・ Happy Children（エンリッチ・コアメンバー）
- ・ 佐藤洋平氏（株式会社「是々非々」社長）
- ・ JAめぐみの農協
- ・ アルビエリ・ニコラス・アリシマ氏（株式会社「レクセント」社員）
- ・ 吉田正氏（株式会社「ファミリー」社長）
- ・ 倉知弁護士
- ・ 大島好晶氏（加茂IT塾主宰）
- ・ 神谷朱里さん（エンリッチ・コアメンバー）



午前の各講座をふまえ、午後からは「振り返り講座」を各教室でオンライン聴講しました。キャリア教育支援団体であるNPO法人「みらいずworks」理事の角野仁美さんは本校の卒業生でもあります。

ワークシートを用いて、自分自身の興味関心を掘り下げていきます。書き終わったら、お互いにインタビューを行って、さらに「自分の知らない自分」を発見していく、という活動です。生徒たちは今まで表面化しなかった本当の一面に出会い、それを「学びのキーワード」に結晶させることができました。



#### 【生徒の感想より】

- ・地域のことや世界のことなど、幅広いことに視野を広げて様々なことを知ることが出来たので良かった。
- ・2つの講座とグループワークを通して、現在の社会について知れたり、今の私たちに必要なこと、活かせることを知り考えることが出来て良かった。
- ・やったことの無いことでも、1度やってみることや、交流をすることがとても大切だと改めて分かりました。
- ・これからの進路や自分のやりたいことについて改めて考えることができたので良かったです。
- ・関心があまりなかった分野の話も聞いたことが新鮮でした。
- ・今の可児市のことや様々な人の工夫についてよく知れた。いつもと違うことをできて、楽しかった。
- ・今岐阜県、日本、世界で何が起きているのかをはなしあうことができた。また、自分に何が必要で、大切にしたらいいかを考えることが出来た。
- ・自分のことを知るきっかけになって、自分の固定概念が少し変わった気もして、自分が本当は何がしたかったのかのヒントになったのでいい経験になりました。
- ・想像もしていないくらい充実した時間だった。将来何をしようか考えていたから、より世界が広がった。なかなか市役所の方や先輩に仕事について聞く機会はないと思うからとても貴重だった。可児市を好きになれるような話を市役所の方から聞いて嬉しかった。
- ・実際に働いている人の想いを聞く場面はあまりないのでとても貴重な経験になりました。これからの探究の授業に活かしていきたいです。

# 若者ガヤガヤ会議 in 可児高校

岐阜県では、次世代を担う若者の意見やアイデアを県政に取り入れることを目的として、年代や所属等のカテゴリーごとに「若者ガヤガヤ会議」を実施しています。その一環である「高校生による若者ガヤガヤ会議」が、8月19日（金）に本校で開催されました。



県政に携わる岐阜県職員の方々が来校され、岐阜県の現状や魅力、課題についてのレクチャーをしてくださいました。



今回の課題は「若者の投票率向上」について。本校の探究活動部「エンリッチ」のコアメンバーを中心として、有志の生徒がグループ討論を行いました。



「SNSを駆使すればいいんじゃない？」「政治家の人のtwitterとか、人気が出るものもある。ああいうのは若者も注目していると思う」「テレビよりはネットの方が今の人に訴える力があるかも？」…高校1・2年生である彼らも、もうすぐ投票が可能になる年です。それぞれが自分ごととして一生懸命考えていました。



本当はこの後、もう一つ別の議題が用意されていたのですが、あまりの白熱ぶりに時間がオーバーしてしまうという事態に！日頃の探究活動の姿勢を余さず発揮できた生徒たちに対し、県職員の方々からも称賛のお言葉をいただきました。今回の話し合いの成果が県政に反映されることがあれば嬉しいですね！